

校種 (学級・教室の種別)	小学校 (肢体不自由特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	主に下半身に麻痺があり、起立の姿勢維持が難しく、杖を使っている。視覚認知が弱く、書字や図形に苦手がある。折り紙が好きだが、細かい作業や手先を使った作業は苦手としている。作業活動に前向きに取り組むことができるが、飽きっぽく、持続力に欠ける面がある。心理状態は安定している。対人緊張もあまりなく、誰とでも話すことができる。	目標 ・ 指導 内容	5身体の動き (5) 作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図る。 ビーズ通し、ドミノ、マット、ボール操作など
指導の経過・ 工夫点・子ど もの変容	<p>&lt;ビーズをつけて、オリジナルのブレスレットをつくろう&gt;</p> <p>一年前にも実施している学習である。教師の示範等も必要なく、どんどん自分の思う形に組み立てていった。はじめは大きい穴のビーズを使い、どんどん小さくしていった。指先の不器用さはあるが、小さい穴でも集中して通していく。小さいビーズを取り上げることも集中してできていた。日頃の授業では集中が切れることも多いが、ゴールの見通しも持ちやすいので、集中して作業に取り組むことができた。</p>   <p>最後の処理（堅結び）は自分では難しいので教師が結んだ。今後はひもを結ぶ練習が必要である。</p> <p>&lt;ドミノ倒しで遊ぼう&gt;</p> <p>ドミノを並べることも集中力と持続力が必要な活動である。倒してしまっても文句など言わず、楽しそうに取り組むことができた。ドミノを並べて倒す以外にも、積み上げて高さを競うなどの遊びも考え、集中して取り組めた。</p> <p>&lt;花・植物育て&gt;</p>  <p>「4環境の把握」の関連で、植物を種から育てるのも持続力と根気の育成によからうと考え、4月から取り組んでいる。3年生の時に育てて種を持っていたオクラ、ホウセンカを育てている。今では毎日水をやり、花が咲いた、実がなったなど小さな変化を喜んでいる。</p>		
成果と課題・ 今後の方向	○苦手な作業やコツコツ取り組むことも楽しみを見つけることで続けることができ、自信につながっていると考える。ビーズアクセサリー作りは「今度は先生にも作ってね」と声掛けしており、次につながる活動になった。次は自分で堅結びや蝶結びなどができる、さらに巧緻性を高める活動につなげられたらと思っている。		